

目的 「個性化の時代」といわれる現代、服装においても個性的に装うことが女性にとって重要な関心事となっている。しかし若い女性にとっての個性化は、とすれば流行に託しての場合が多く、結果的には没個性的な装いになっている。真の意味での個性化が他人にない自分らしさの表現だとすれば、その実現には、他者と区別するところの自己を構成し包括する個人の独自性とそれをどう認知しているかといった自己概念が大きく影響すると考えられる。本研究では自己概念とファッション行動との関連を検討することによって、現代の女子大生にとって個性的な装いとほどのようなものが明らかにしたい。

方法 理論仮説にもとづく分析モデルをもとに調査票を作成し、関西地区9大学の女子大生60名を対象に、配票留置法によるアンケート調査を行った。自己概念の測定には、心理学でよく用いられているセルフ・モニタリング尺度と外向性尺度(MPI-E)を用い、算出した得点をもとにファッション行動との関連をクramer関連係数を用いて分析した。

結果 外的な状況や他者の反応など外的要因よりも自分の考えなど内的要因を重視して行動する傾向の強い人は、流行に積極的なタイプと消極的なタイプの両極に多く、自己概念がファッション行動に大きな影響をおよぼしていることが明らかになった。また服装によって他人とは違う自己主張をしたい、自己満足でもいいから自分で考えた装いをしたいと答えたものが多く、個性化が重視されているものの、一方で流行や変化も重要だと考えているものも多い。つまり現代の女子大生にとって、流行は個性化の重要な手段になっており、個性的な装いも流行という枠内の個性化であることが明らかになった。